

[成果情報名] 極早生ウンシュウ「静丸早生」(S1173)の特性

[要 約] 果樹研究センターが育成した、「静丸早生」は、同時期に収穫される「宮本早生」、「日南1号」など、従来品種よりも品質が優れた極早生ウンシュウである。

[キーワード] 極早生ウンシュウ、育種

[担 当] 静岡農林技研・果樹研セ

[連絡先] 電話 054-334-4853、電子メール kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 果樹

[分 類] 技術・普及

---

[背景・ねらい]

本県の柑橘産地は、「青島温州」が約半分を占めている。そのため収穫労力や出荷が集中し、規模拡大の妨げとなっているため、「青島温州」偏重を緩和できる、新たな品種の導入が求められている。一方、極早生ウンシュウは九州各県が主産県であるが、温暖化により産地が東に移動しつつあり、本県においても、産地化の検討が必要になってきた。しかし、従来極早生ウンシュウ品種は、年によって品質が不十分であり、より品質の優れた品種の育成が求められている。そこで、品質の優れた極早生ウンシュウ品種の育成を目指す。

[成果の内容・特徴]

- 1 「静丸早生」は昭和 63 年に「宮本早生」に「錦橙」の花粉を受粉して得られた珠心胚実生である。
- 2 「静丸早生」は酸含量や着色の推移から、主要な極早生品種である、「宮本早生」や「日南1号」と同時期の9月下旬から可食期となり、これらの品種よりも糖度が高く、食味は良好である。
- 3 「宮本早生」や「日南1号」と比較し、果形が腰高（果形指数が低い）であり、他品種との外観の区別が容易である。

[成果の活用面・留意点]

- 1 育成地（果樹研究センター）以外での栽培事例がないため、県内各産地での適応性を確認する必要がある。
- 2 果実の生育期間が短いため、より高品質の果実生産を行うためには、乾燥しやすい園地に栽植するか、マルチ栽培とすることが必要である。
- 3 「静丸早生」（系統番号 S1173）は平成 21 年 3 月に品種登録を申請した。

[具体的データ]

表1 「静丸早生」の果実特性(調査年月日:平成20年10月5日)

品系	種統	調査果実重 g	果形指数	果皮歩合 %	果皮			糖度 Brix	酸含量 %	糖酸比
					果皮厚 mm	a*値	着色歩合			
静丸早生原木		101	125	15.5	2.0	2.8	5.8	10.1	0.86	11.8
静丸早生二代目		85	121	14.3	1.9	1.1	5.6	10.9	0.99	11.0
宮本早生		102	137	18.1	2.1	-9.8	2.1	9.1	1.13	8.4
日南1号		92	129	15.9	2.0	-4.9	3.8	8.5	0.85	10.0

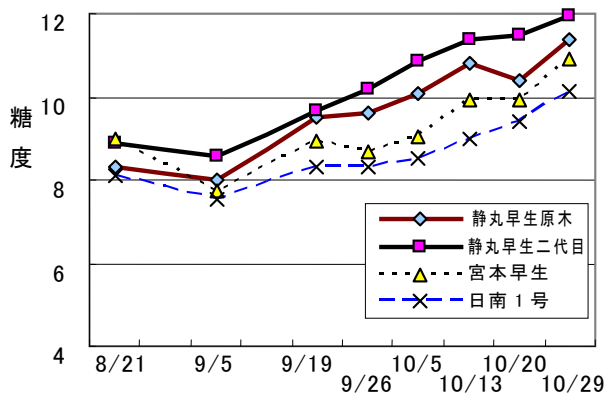


図1 糖度の推移

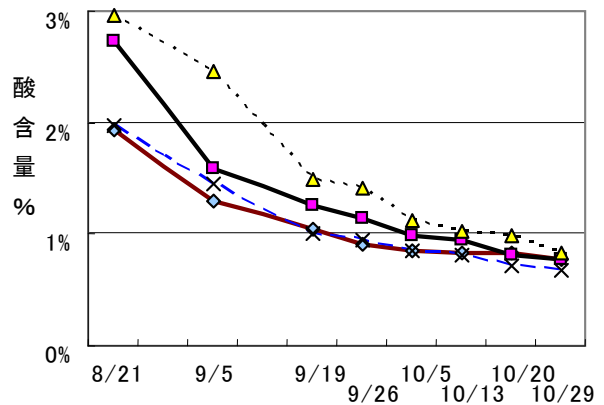


図2 酸含量の推移

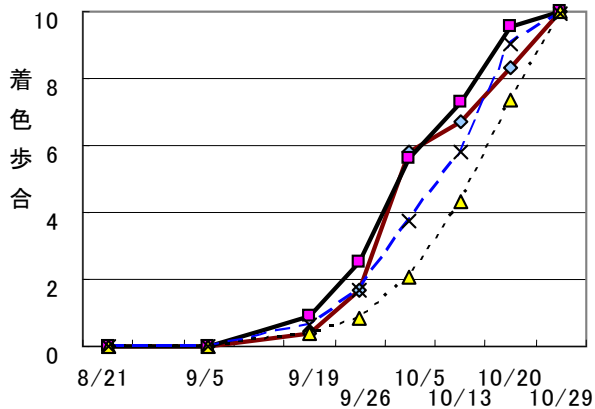


図3 着色歩合の推移



図4 「静丸早生」の果実

[その他]

研究課題名: 銘柄産地を育成する果樹新品種の育成

予算区分: 県単

研究期間: 2008~2010年度

研究担当者: 荒木勇二